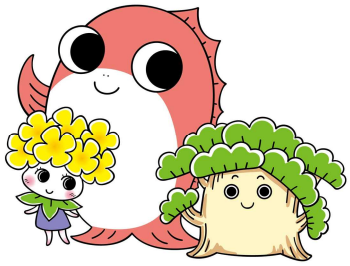

地方創生　応募アイデア一覧

◆寄せられたご提案（要約）

募集テーマ	意　　見
鴨川市での安定した雇用を創出するために （７月提出分）	・空き家を利用した施設を整備し、移住の受入れを行うと共に新たな雇用の場の創出を図る。 現在、定年を迎え第二の人生を歩んでいる。ふるさと鴨川に戻り就職をしたいと思うが高齢だと難しい面も多い。こういう人は大勢いると思う。 給料の問題ではなく、社会との関わりを持ちたい、貢献したいという気持ちが強い。市内の空き家等を活用し、退職をされた高齢者や介護の必要な人々の受入れを行い、新たな仕事づくりや、我々が簡単な手伝い、奉仕ができるような仕組みがつくれないかと考える。 （60 代　男性）
	・鴨川の農業を元気にする。 長狭米に頼っているが、品種改良等により各地でうまい米が数々現れ、競争力がなくなってきている。また、米作自体、収益性が低く、新たな若者の就業は難しい。近代的農業団体組織を設立し、新たな野菜や花などの特産品づくりを進めるべき。 （80 代　男性）
	・運転免許などの資格を取れない人達の働く場の創出 眼科、内科などで運転免許などの資格が取れない人はなかなか働く場所がないので、市などで働く場所を作って欲しい。 （40 代　男性）
（８月提出分）	・海洋資源の有効活用・開発 鴨川は、太平洋というすばらしい資源がある。もっと有効活用・開発をしたらよいと思う。漁業には定置など若い人が多いため、活かしたらよいと思う。 （年齢性別不詳）
	・農業の活性化 体力的に耕作が難しい、あるいは人手が足りないために、農地の現状維持が困難になり、耕作放棄せざるを得ない状況に追い込まれている地主が多い現状の中、地主自身が市内外の第三者と共同して耕作・栽培・販売を行い、収益を配分するのは、農業活性化の方策のひとつである。地主単独で計画を進めるのは難しいと思われるので、市が仲介役として仲立ちを行い、地主と第三者が共同して行う農業体制の整備を図ってはどうか。 （70 代　男性）
	・林業の活性化 木立の選別、間伐、倒木の撤去などの過程で集められる商品価値の低い木材を粉砕し、豆炭状に圧縮整形加工してストーブの燃料として販売する動きが全国的に広がっている。 この分野で恒常的な労働力の雇用や、チップに加工し販売することを検討してはどうか。 （70 代　男性）

・新たな水産加工品の特産品（コンフィ）を開発する。

市内の水産加工業者が中心となり、市場に出せない規格外の魚（シイラなど）や雑魚、取れすぎた魚（アジなど）を使って新たな水産加工品を開発・商品化し、通販やお土産物屋で販売する。具体的には「コンフィ」という魚や肉を低温の油で煮て、保存食品にする製法があるので、規格外の魚や雑魚を加工して、保存性の高い食品にする。

コンフィに加工することで、取れすぎた魚の価格調整もできるし、新たな名物料理（コンフィ丼など）誕生の可能性もある。

（50 代　男性）

・木質バイオマス発電所を整備する。

廃止されるゴミ焼却場の跡地を使って、市内の豊かな森林資源を活用した木質バイオマス発電所を整備し、売電する。

市内の製材所や森林組合と協力して、市内の森林から発生する間伐材、林地残材を集めて、燃料として発電する。現地でチップ化し、市のゴミ収集車で回収するなど低コスト化の工夫を行う。

（50 代　男性）

・鴨川のトマトをつかった特産品開発

鴨川のトマトは非常に美味しいが、東京ではほとんど知られていない。そのため、鴨川のトマトを使った、これまでにない特産品を開発して、知名度向上と農家収入の増加を図る。たとえば、トマトジャムやトマトを乾燥させて粉末にしたトマトパウダー、トマトが入ったタバスコなど。

（50 代　男性）

・売れるものづくり

市内の製造業や職人、市民、大学生の発想によるアイデア商品を開発し、製造販売する。

比較的簡単な技術で製造でき、ユニークで役に立つニッチな商品を市民や事業者参加で開発し、製造販売する。まずは商品のアイデアを集めるため、誰でも参加できる「売れるものづくり講座」を実施し、採用されたアイデアを市内の製造業や職人が製造・商品化を行い、市内や通販で販売する。

（50 代　男性）

・安定した雇用を創出するためにはどうしたらいいか

当然就職先が多い事が前提だが、雇用形態も社員としての採用が多い事も重要である。企業数が増えなければ爆発的な雇用改善は難しいと思うが、ではどうすれば企業が地方に進出してくるか。

業種にもよるが、観光や特産といったような強みを持ち、人の活気に満ちあふれている街であること。そんな街であれば、相乗効果で大手デパートや量販店などが進出する際の候補にもあがるだろう。

（年齢性別不詳）

	・地域経済を活性化させるために～地消地産の大原則 地域で消費されるものは可能な限り、地域で生産されること。つまり、住民が支出する代金は、地域内に留まらせること。地域内で回る資金が大きくなる。これ即ち、経済の活性化ではないか。 電力は、休耕田を活用した太陽光発電等の自然エネルギーを拡大させて、地域内で賄う方向とすべき。暖房等の熱エネルギーについても、地域の里山を活用する工夫をしたい。藻谷浩介氏とNHK広島取材班による「里山資本主義」を参考にすべき。これらはいずれも地域内にあるものを生かす取組であり、雇用創出にもつながると思われる。 （年齢性別不詳）
	・国際観光都市としての発展を目指す。 鴨川市は国際観光都市としての高いポテンシャルを秘めている。天津、小湊は日蓮聖人ゆかりの地として世界中の人に知られているのでマーケティングし易く、2021年は御生誕800年となり、毎年の行事としても「御生誕の日」、「立宗の日」」などの日があり、安定した集客を見込める。 また市内に日本有数の総合病院があり、看護大学も有ることで国際学会など誘致し易く、廃校になった校舎などすぐに使える建物があり、宿泊施設などすぐに作れるし、 外国人向け民宿を経営したい人たちがすでにいる。 現在はインターネットの技術が発達しているので、今すぐからバーチュアルな国際会議を安価に開催していくなど、リスクの少ないところから始めて発展させていくことができる。 （50代　女性）
	・通信インフラのバックボーンを強化し、IT系中小企業の市内誘致を図る。 IT企業の中には、通信インフラさえ整備されていれば、必ずしも都市部に本社を置く必要のないものもある。海の見えるIT企業群をコンセプトとして、前原海岸沿いの一部エリアを企業用地として再整備する。 （30代　男性）
	・市内大学へ学部の新設を働きかける。 医学部、歯学部、獣医学部等の新設、また、臨床検査学科、診療放射線学科、動物看護学科等の新設を働きかける。 （30代　男性）
	・就農支援金の支給 市内で農業を始めようとする45歳以下の者に対し、5年間で計200万円程度の支援金を支給する。申請者は申請時に事業計画書を提出し、審査を受ける。 （30代　男性）
鴨川市への大きな人の流れを創るために （７月提出分）	・お盆の期間中、市内外から参加のできる盆踊り大会を開催し、集客を図ったらどうか。 若者達の心に残るイベント、若者たちが地域を自慢できるような全国レベルのイベントに育てていくことが大事。 （70代　男性）

・鴨川市は海と自然と温暖な気候すべてがある市、カリフォルニアの風が一番に届く房総！
もっとPRし、イメージアップを図ることを提案する。

（60 代　女性）

・空き家を活用し、畑付きの居宅を安く貸し出して、都会からの移住者の増加促進を図る。
空き家のリフォーム等費用のかかる部分もあるが、若い家族を安い費用で呼び込むこともできる。田舎のほうが絶対に生きやすいし、子育てもしやすい。

（60 代　女性）

・花一杯の鴨川づくりを（保台ダムの活用）
「冬も菜種の花が咲く」と歌にもあり、温暖な気候の観光地である鴨川だが、街中にも花が咲いているといったこともなく寂しい。花一杯の鴨川にしたい。鋸南では河津さくらと水仙が有名になり、多くの人が訪れている。
鴨川では、保台ダムがうまく活用されていないので、この周辺の植栽やウォーキング道の整備などによる環境整備を行い、集客を図ったらどうか。

（80 代　男性）

・大学、自衛隊、消防学校などの誘致（公共交通の整備も含め）
現在、市内では農業も漁業も商業も頭打ち。まずは人員増を図ることが大事だと思う。大学や自衛隊、消防訓練校等を誘致すれば若い人たちの流入が図れるし、これに伴う消費の拡大、空き家の解消などにも繋がる。
そのための環境整備として、JRの複線化や都心とのアクセスの改善などにも取り組むべき。

（80 代　男性）

・内陸の都市との観光交流促進
鴨川の観光宣伝の一つの方法として、海のない都市との交流を深め、イベントへの相互参加などを行い、PRをするべき。

（80 代　男性）

・空き家利用（貸家等）による移住促進
市内の空き家が増加傾向にある。所有者との調整により、一時的に借家にする、移住者に斡旋する等の方法により活用すべき。

（80 代　男性）

・住みやすい街づくりへ（マナーやコミュニティの再構築を）
鴨川市は観光地になったせいか様子が今までと変わってきたと思う。また、人の出入りが多くなったためにマナーが悪くなったように感じる。
少子高齢化の時代に入り、人との対話も難しくなり、住みづらくなってきたと感じている。

（60 代　男性）

・鴨川 88 箇所　椅子めぐり（スタンプラリー）

鴨川市の旧市街地が寂れていて、とても気がかりである。交流人口による賑わいを創出するには、いかにして人の流れを誘うか、一見客で終わらずに何度でも訪れてもらえるリピーターの定着を目指した取組みが必要だと思い、その一つの取組みとして鴨川 88 か所椅子めぐりを提案する。

駅や市内に点在する観光施設などに趣のある椅子を配し、椅子巡りコースを設定する。この 88 箇所をめぐるスタンプラリーを実施し、達成者には特産品や食事券等のプレゼントを行う。

椅子へのコンセプトは、憩い、視野、瞑想、語らい、一休みできる場所。

（70 代　女性）

・新たに友好都市提携し、交流による相互発展を目指す。

鴨川市には海があり、一年中温暖で、これを活かした漁業、農業、観光などすばらしい資源がある。

これを活用し、都市間交流の中から、住民同士の交流、訪問等を通じ、地域のすばらしさを体感してもらうことが重要であり、こうしたことの延長に、鴨川市の産品の新たな販路や移住があると考える。

【友好都市の候補案】

長野県東筑摩郡麻積村

宮城県大崎市　など

（70 代　男性）

・鴨川霊場めぐりコースを設定し、観光資源に取り入れる。（宿泊型観光）

地域活性化の一つの形態に霊場めぐりがある。全国的に有名なのは四国の巡礼であるが、鴨川市でも日蓮の遺跡をはじめ、神社仏閣を中心にたくさんの霊場、霊蹟があり、新たな地域おこしのテーマとして検討の余地があるのではないか。

白衣と杖をついたお遍路さんが大きな鴨川おこしの資源となる可能性がある。

（80 代　男性）

・中学生修学旅行の里づくり

旅行の募集は難しい。しかし、海なし県をターゲットとした、中学生の修学旅行の募集なら可能ではないか。

南房総全体でコースを組めば、南房総の花畑や館山の里見城、鋸南町の鋸山など２泊は確保できる。地域のガイド付きで車内食には「おらが丼」を使用する等の工夫をすれば地域おこしにも繋がるだろう。

題して房総歴史散策の旅はどうか。

（80 代　男性）

・観光ガイドクラブ創設による観光ガイド派遣

観光の3要素は、見る、遊ぶ、食べるといわれるが、これに「聞く」という要素が加わればさらに充実する。

観光案内所に申し込めばいつでもコースに精通したガイドを派遣してくれる。こうした仕組みをつくっていくことが大事だと考える。

（80 代　男性）

・農産加工品株式会社の設立による農業振興を図るべき

今日本の抱えている問題は、人口減少と農業の凋落である。地域の働き場所の確保を図るため企業誘致に取り組んできたが、多くは失敗に終わっている。これからは、地元の農産物を利用した加工会社を立ち上げ、地域の振興と雇用の確保を図ることが必要ではないか。

味噌、たまり醤油、食酢、麹などなど数え上げればきりがない。販売先も、大手スーパーチェーン、コンビニなど様々なものがある。

農業が元気になり雇用が生まれれば鴨川も元気になる。

（80 代　男性）

・コミュニティバスの検討

市内コミュニティバスを観光にどう結び付けるか研究する必要がある。

（80 代　男性）

・貸農園の普及、それに伴う空き家、学校跡地の利活用

現在、棚田ではオーナー制度を実施しているが、市内にはその外にも多くの遊休農地がある。これを、都会の人のレクリエーションを兼ねた貸し農園として整備すべき。宿泊は、空き家や遊休学校施設などを活用すれば賄え、これが将来の移住に繋がる可能性もある。

（80 代　男性）

・嶺岡林道沿いの整備・開発による新たな観光資源の開発を行うべき

お隣の南房総市の酪農の里から嶺岡林道を経て一戦場公園に繋がるコースを再整備すべき。

この間には、旧水田家住宅や西分校跡地などの旧跡があるうえ、この一帯が古代牧の史跡であり、今後観光資源化できるものも多い。加えて、付近には昔、里見の城があり、里見氏全盛の時代には長狭統治の拠点であった。

この地に嶺岡里見城を作れば新たな観光拠点となるし、また、道の両脇の樹木を伐採することにより、両側の眺望が開け、スカイラインの眺望が楽しめる。

こうした面的な繋がりを持つことにより、一戦場公園や女神像ももっと生きてくる。

（80 代　男性）

・米国マサチューセッツ州ケープコッド、ケープアンのような観光都市づくり

ボストンの下側にケープコッドという観光地があり、その上にケープアンがある。ケープコッドは伊豆のような雰囲気、ケープアンは静かな心温まる観光地、小さなしゃれたレストラン、みやげ物屋や画廊がある。こうした観光地を目指したらどうか。

（70 代　男性）

	・一戦場公園に常設グラウンドゴルフ場を設置 グラウンドゴルフは高齢化が進む中でいつでも、どこでも、いつまでも出来る生涯スポーツとして人気が高い。健康増進にも役立ち、多くの市民が利用することにより医療費の節減にも役立つ。 また、観光都市を目指す鴨川市として、一戦場は景観を楽しみながら気軽にグラウンドゴルフを楽しめる最適の場所であり、市外の誘客にも大きな効果が見込まれる。加えて、会場設置についても多額の費用を要しない。 （70 代　男性）
（８月提出分）	・交流人口を増やすこと 農家民泊の受入農家を募集し、都市住民に対してホリスティックツーリズムをもっと積極的に PR する。受入農家を増やすにはスタンダードな価格は現行通りとし、各種オプション価格を統一し、それなりに純益が出る経営方法を具体的に説明できるようにし、副収入源として位置付けられるようにすること。 （60 代　男性）
	・移住人口を増やすこと 新しい形態の環状集落を形成し、農業に従事しながら、子育てを希望する若い世代の移住・定住者を募る。それには、その環状集落ごとに経営が成り立つよう既存の農家、企業、行政の協力を得ながら経営の成り立つ仕掛けを用意したうえで都市住民に PR を行うこと。 （60 代　男性）
	・NHK 大河ドラマで「日蓮」を取り上げてもらえるように運動する。 鴨川は嶺岡牧、主基斎田、一戦場など、数多くの歴史遺産がある。中でも、頼朝や日蓮を通しての鎌倉との繋がりは深いものがあるので、歴史の町として PR してはどうか。 具体的には鎌倉や身延など関係地域と協力・交流する、NHK へ要請、市独自に絵本などを作成、城西国際大学観光学部との協力、市民へのアピールを行うなどなど。 （20 代　男性）
	・市民会館及び市営プール敷地に、屋上プール型建物を建設し、イベント会場にする。 市民会館と市営プールの場所に屋上プールがある高層建物を建設し、イベント会場や市民の運動の場、憩いの場として活用する。 市民会館は鴨川花火大会では絶好のスポットであり、夏場は目の前の海に海水浴客が賑わう。ここでイベントを行えば多くの人が集まると見込まれ、市営プールが利用中止となって惜しがる市民の声にも応えていける。 また海へと入れるウォータースライダーなど奇抜なものがあれば、より注目が集まり観光客の増加に繋がる。 （20 代　男性）
	・鴨川市地方ソーセージを特産品にして売る。 市一丸となって取り組むおやじギャグ（地方創生と地方ソーセージをかけたもの）。奇抜でくだらないと好評を受けるのでは。 （20 代　男性）

・鴨川移住作戦
　・移住してから 1 年間市民税を半額
　・子どもがいるご家庭の医療費、外来受診料無料（中学 3 年まで）
　・高速バス（横浜、川崎方面）の便を設置
　・移住してすぐに生活が出来るよう、事前にリフォーム済の古民家やアパート、借家、分譲地（増設）を用意し、受け入れ体制を整備
　・鴨川市の良さを PR（県知事や市民の協力で東京、横浜、川崎方面の駅で運動を行う。もっと TV やラジオで紹介してほしい。）
　・企業や商業施設の誘致（働く場所を増やす。私生活が問題なく過ごせるよう、便利で明るい街づくりの強化）

（30 代　男性）

・長狭街道（主要地方道鴨川保田線）道路拡張
長狭街道を拡張し、君津木更津方面への通勤道路とする。

（70 代　男性）

・市営住宅建設
大山保育園を解体し、市営住宅を建てること。

（70 代　男性）

・在宅勤務を可能にするインフラ整備
インターネットを利用した在宅勤務という新しい会社勤務形態が生まれている現代において、インターネット関連の最新インフラ整備を市が備えることで、インターネット在宅勤務者の移住を促す。海、山が豊かなこの町が「在宅勤務の市」として全国に名をあげ、在宅勤務希望者が移住を目指すような市になって欲しい。

（70 代　男性）

・幹線道路に自転車道を併設する。
観光地を自転車で巡るのは楽しいし、通学通勤にも自転車は大きな助けになる。鴨川市内の主要道路、幹線道路に自転車専用の道路が併設されることが望ましい。安心して走ることが出来れば爽快感も倍増する。快適にサイクリングを楽しみたい人が集まり、自転車愛好家にも歓迎されるはずである。

（70 代　男性）

・青空公営マーケットの設置
地元産の野菜や果物、海産物や畜産物を並べた、西欧風のマーケットが鴨川市内に数カ所あれば、見るだけでも観光客は楽しめるし、住人にとっても日常の生活に便利だと思う。鴨川市の名物スポットになるかもしれない。

（70 代　男性）

・ヨットハーバーの設置、運営
外洋に面しているため波の荒い日があるが、ヨットハーバーがあればこの地でのヨット愛好家は増えるかもしれない。「千葉の湘南」を目指し考えるのはどうか。

（70 代　男性）

・鴨川マラソン大会の開催

全国で市民マラソン大会が盛況であり、場所によっては数万人もの参加者が集う。山海豊かで美しい鴨川市がこのイベントを行わない手はない。鴨川らしい華やぎがある大会の開催を期待したい。

規定のフルコースに加え家族で走れる 3km、5kmなどのコースの設定や、温泉、食事など鴨川の良さを走者や観客が楽しめたらいいと思う。県内外は無論、国外からの参加者をも呼び込める、魅力を持つ大会の実現に観光施設と協力してもらいたい。

（70 代　男性）

・積極的 PR

人口の減少を抑える為にも、今から都会のリタイヤ組などの誘致を積極的に行うため、行政がより積極的に市の各種PRに取り組んでほしい。

知名度向上のため、東京などで観光スポット等（施設、観光ホテル、イベント、物産等）をもっと積極的に PR する。既存のイベントは全てにおいて中途半端であり、イベントの数を絞り込み、あるいはお金をかけるなど、観光客の誘致を目的としたイベントとしての努力が市民と行政に必要である。

（70 代　男性）

・道の駅（オーシャンパーク）を、地場産業を振興するための施設とする。

道の駅（オーシャンパーク）を魅力ある観光施設とするため、売店では海産物、野菜、花等の地元物産品を積極的に販売するとともに、地元物産品の魅力をPRする。

食堂では地元海産物を使った豪華バイキングや豪華食べ放題コーナーなど、他の道の駅食堂に先駆けて、魅力ある食堂をつくり PR する。

（70 代　男性）

・吉浦港の再利用

最近話題になっている「海の駅」などを吉浦港に誘致し、全国規模の観光拠点を目指す。立派な港を作った割には、現在、数隻の釣り船と少数の漁船にしか活用されておらず、実にもったいない。

（70 代　男性）

・鴨川市産品域外消費喚起事業

鴨川市産品の域外消費喚起事業として、認知度向上、販路拡大、購入促進を目的に、会員制映像配信サービスを活用したテストマーケティングを実施する。

そのテストマーケティングで得たビッグデータを活用しながら「売れる商品の仕組み作り」を行い、鴨川市発の新ブランドの推進や大ヒット商品の発掘及び成長を目指す。

（30 代　男性）

・定年後の「人生の楽園づくり」

居住可能な遊休住居、店舗等を市で管理し、首都圏からの移住者（新聞広告等メディアを活用し、具体的に展開する。）に低価格で貸与する。また、農地、山林、漁業施設の遊休資産も市で管理し、「人生の楽園」づくりを支援する。また所有者を中心とした指導員制度をつくり、移住者を支援する。

対象が首都圏の定年退職者のため、「終の棲家」が必要であり、鴨川市に既存する医療・介護施設の更なる充実を市として推進する。「終焉の地鴨川」をキャッチフレーズに市営の墓地（散骨墓地）や散骨海域を設定し、近代的墓地感覚に積極的に対応する。

財源確保として遊休資産税を課し、市へ資産貸与した場合は課税免除とする。また、これを財源として指導員に対して手当を支給する。

（70 代　男性）

・市民会館跡地にサーファーズインを整備

サーファーは、海辺の駐車場にとめた車の中で寝泊りしているが、快適とは言いがたい。そこで、市民会館跡地にサーファーが低価格（1 泊 3,000 円程度）で快適に寝泊りできる施設（サーファーズイン）を整備する。

（50 代　男性）

・日本版 CCRC を実現する。

市内にある 2 つの大学を活用し、首都圏の高齢者が鴨川に移住し、生き生きと暮らせるまち（日本版 CCRC)を作る。移住した高齢者が市内大学で学んだり、学生が高齢者のボランティアをしたりするなど若い世代と高齢者が交流し、助け合い、生きがいを持って暮らせるまちを作る。

（50 代　男性）

・外房線、内房線の利便性向上、活性化

特急わかしおについては、短編成化（3 両編成）かつワンマン運転にすることにより、運行コストを削減し、高速バスに対抗して、1 時間 1 本の運転本数を維持することを JR 東日本に働きかける。併せて、安房鴨川駅前の駐車場を利用して、特急利用者向けのパークアンドライドを実施するように JR 東日本に働きかける。

外房線については亀田病院と鴨川シーワールドの近く、内房線についてはオーシャンパークの近くに新駅を設置し、観光客や病院通院者・従業者の鉄道利用を促進する。

（50 代　男性）

・復職希望の看護師のためのサマースクールの実施

全国的に看護師不足が問題となっているが、医療技術の進歩などにより、復職をためらう看護師が多い。復職のためには、最新の医療現場の知識・技術の習得と実習が必要である。そのため、大学の夏休み中の空きを利用し、東京等市外在住で復職を希望する看護師のためのサマースクールを開催する。サマースクールにおいて、病院における実習も組み込む。講習中の宿舎は市内の旅館やホテルの空き部屋を活用する。

（50 代　男性）

・鴨川のお菓子やパンをアピールする。

市内には手作りのお菓子屋や自家製パン屋がいくつかあり、お菓子やパンが美味しくて、楽しいまちである。そこで「パンとスイーツのまち」として、鴨川をアピールする。

そのため、まず市内のお菓子屋やパン屋を紹介する冊子（仮称「鴨川スイーツ＆ブレッドガイドブック」）を作成し、観光案内所や旅館、ホテルで配布する。

（50 代　男性）

・空き家の有効活用

現在、ふるさと回帰支援センターで行っている移住希望者への空き家情報提供サービスを拡充させる。市内中の空き家を一度調べ、市内外へ広く発信する。用途も多目的利用に。（例　スポーツや趣味などでの短中期的な滞在、学生や留学生、文化や芸術などの製作活動など）

（30 代　男性）

・他県ナンバーの車にやさしいまち宣言

観光客へのおもてなしの一つとして、他県ナンバーの車へ特にやさしくする。例として、割り込みをゆずってあげる、道を案内してあげる、声をかけてあげる、挨拶をする、笑顔を見せるなど。

（30 代　男性）

・仁右衛門島の新たな活用を考える。

公募型プロポーザルを実施し、規制緩和をして用途を多目的にしたうえで、民間に業務委託する。その他、ネーミングライツの導入など。

（30 代　男性）

・現代の伊八を育てよう

波の伊八の生まれ故郷である鴨川において、現代の伊八となるべく彫り物に興味のある人たちへスポットを当てる。

・彫り物の腕を競う「伊八選手権」、知識を競う「ものしり伊八グランプリ」の開催
・定期的な彫り物教室や伊八の彫刻めぐり（ガイド付き）の開催
・彫り物師養成所の開設　など

（30 代　男性）

・日本版 CCRC の実施

東京圏の 50 代男性の約 50%、女性の約 30%が地方居住を希望していると言われている。日本版 CCRC の実施に当たっては、観光・医療分野の事業の検討を進めてほしい。

・元気な高齢者を維持するため、老人クラブ等と連携し、健康づくりを強化
・高齢者向け住宅の確保
・訪日外国人旅行者の受入環境の整備
・道の駅の調査、充実
・市内大学との連携

（80 代　男性）

・花で溢れる道路をつくる。

観光客の方が鴨川駅からシーワールドまで向かう途中、ただの移動時間になってしまわぬよう、シーワールド周辺の道路を房総フラワーラインのような道にすることを提案する。

これが実現すれば、観光客の方が今よりもっと気分よく入退場できると同時に、「鴨川＝海と花」というはっきりとしたイメージを持ってもらうことができ、イメージアップにつながるのではないか。

（20 代　男性）

・「海と花」の景観をつくり、PR する。

海の近くの観光地は鴨川以外にもたくさんあり、花を見ることのできる公園や施設は都市部ほど充実しているのが実情である。そこで南房総の一般的なイメージである「海と花」を同時に眺めることのできるスポットをいくつか作り、他の観光地との差別化を図ることを提案する。また、スマートフォンと SNS の普及により従来よりも写真が身近になったため、絶景スポットや面白い写真を撮ることができる場所を積極的に作り、紹介してはどうか。

（20 代　男性）

・日本一！シングルマザーに優しいまち鴨川

シングルマザーにやさしい施策（補助金・優遇制度など）を実施し、「シングルマザーに優しいまち鴨川」を広く外に宣伝して、首都圏近郊のシングルマザーの移住を促進させる。

鴨川の基幹産業である医療・福祉・観光は若い女性の雇用を必要としており、社員寮を設けているところが多く、市内には現在建設中の認定保育園もある。首都圏から近く、自然豊かでありながらも日常生活においての買い物、外食のそろっている鴨川はシングルマザーに優しいまちに適合するものと思われる。

（40 代　男性）

・人材の育成

・若者や 30 代から 50 代の事業者の意見を取り入れる仕組みを作ること

（長崎県平戸市におけるふるさと納税の取組を例に）若者の意欲を伸ばすとともに、地域の事業者を含む周囲との関わりのもとで継続的な取組を進めさせるなど、長期的な視点での人材育成

・「お迎えする」「感謝をする」「おもてなしをする」事を学ぶこと

豪華な施設をつくるだけでは、人を集めることも、長く続けることもできない。携わる方が「迎え入れ、感謝をする気持ち」を持つこと

・施設を作ることではなく長期的な視野に立って人材育成スクールを設立すること

業種を問わず、郷土の歴史、名産、施設、名所を知ってもらい、来訪者に紹介できる人材を育成

・コンサルティングではなく数多くのアドバイザリーを用意すること

地域活性化にコンサルティングは不要。企画・提案は地域の若者（できれば UJI ターン者）を中心に練り、そこに法律や補助制度等のアドバイザリーが加わること

（60 代　男性）

・GPS を使った陣地取りゲームであるスマホアプリ「イングレス」を活用した町おこし

「イングレス」では決められた順番でポータル（拠点として指定された場所）を回る「ミッション」がある。これを活用して鴨川市内を回るミッションを作成し、鴨川を好きになってもらう。（例：おらが丼ミッション、鴨川散歩道ミッション、源頼朝伝説ミッションなど）

またお店や施設などと提携し、おらが丼のエージェント割引、イングレスカクテルの提供、地元商店街とのコラボ、無料充電器の貸し出し、貸し自転車の割引券、いちご狩りなどシーズンイベントとのコラボ、鴨川市オリジナルイングレスグッズ販売などプレイヤーにとって「イングレスしやすい地域」と思っていただき、気軽に足を運んでもらう。

（30 代　女性）

・鴨川市内または安房地域に、大学生、社会人の教養教育に役立つ文献集積基地を設置

安房地域の 2 つの大学キャンパスやセミナーハウス・研修所の大学生が共通して利用できる教養教育用の資料を集積した施設を設け、今まで以上に学生や研究者を呼び込む。

また、この文献の集積基地を社会人が使用できるようにすることで、社会人の教養教育を後押しし、職業能力の開発につなげることもできると考える。この施設が教養を鍛え能力開発に有効と伝われば、企業がテレワーク導入候補地に挙げるかもしれず、しかも、複数の企業がテレワーク先にして、この基地を中心に異なる企業の社員が接点を持つようになると、そのネットワークやコミュニティそのものに新たな価値が生まれる。

（30 代　男性）

・便利な環境の形成

便利な環境は観光、また生活の面でも重要であると思う。鴨川は気候は温暖で海もあり、週末たまに遊ぶのにはいいところだが、買い物したり交通も不便だから住むにはちょっと…。

観光に関しても同じで、メインとなるスポットが少ないし、海岸の景観をハワイのようにしたい感じはあるが中途半端で、街全体が協力して同じ方向に向かっていない感じを受けてしまう。泊まり客以外にも日帰りで楽しめるスポットを増やし、ご当地の売りを明確にするべき。

（年齢性別不詳）

・子どもの遊び場づくり

ボストンのチルドレンミュージアム、篠山チルドレンズミュージアム、カンドゥー、いわて子どもの森、アンデルセン公園、川崎市子ども夢パークなどをモデルとし、廃園・廃校になった施設を利活用し、コンセプトや対象年齢が違う子どもの遊び場を数か所作る。泥んこ遊び、じゃぶじゃぶ水遊び、室内でも十分に体を動かせる遊具、工作やお買い物ごっこやスタンプラリー、子どもの料理教室や陶芸教室、お花や野菜の栽培や収穫・販売、ランチの販売、イベント等々。

（30 代　女性）

・市営プール

入場料は原則有料（市民は割引）として、運営に関してはボランティア（有償）に協力してもらう。ニーズを知る子育て中の母親や父親、子育て支援の関係者と一緒に企画を行う。（託児所を設けるなど）

（30 代　女性）

	・国際人として育つ教育ができる街となる。 市内には廃校になった学校などすぐに使用できる施設があるので、英語村や、幼児期から高校までのインターナショナルスクールを作る。小さい規模から始めて拡大していくことができる事業でもあるし、子どもを留学させたい、国際的に活躍できる人物にしたいと願う家族を鴨川に呼び込むことができる。また海外から日本に子連れで移住したい人も呼び込める。 （50 代　女性）
	・交通インフラ等の整備促進 館山道（君津 IC あるいは鋸南保田 IC）との連絡道（例：房総横断道路）及び圏央道あるいは九十九里有料道路との連絡道（例：外房鴨川ライン）を建設する。なお、圏央道については、引き続き早期の全線開通を進めていく。 （30 代　男性）
	・鴨川市ならではのスポーツ合宿 今後さらに魅力ある合宿地を目指す上で、「飴と鞭」を使い分ける合宿地としての鴨川を提案する。 ・日本有数の総合病院指導のもと、リハビリ・トレーニング・栄養面の指導 ・海岸を整備し、砂浜の負荷を利用した日常では出来ない砂浜トレーニングの提案 ・スポーツ漬けではなく、リフレッシュ効果を狙った、市内観光施設の優遇措置の提供 ・鴨川市営球場を民営化し、民間のノウハウによる施設の運営・整備 ・鴨川市営球場以外の球場整備による、多数合宿誘致、相互交流によるリピート化 ・合宿担当窓口の設置による手続の円滑化（新規客、リピート客の増加） （30 代　男性）
	・安心安全、日本一の海岸へ 日本の渚百選に選定された鴨川の美しい海岸線は全国に誇れるひとつであり、また鴨川はサーフィン発祥の地として知られている。 こうした中で、海水浴客のマナーや路上駐車の問題などに、より厳しい姿勢で取り組むことで、鴨川の安心安全な美しい海岸を次の世代に繋げていくことが出来る。 具体的には前原海岸の縦列駐車の禁止、流木や漂流物の徹底的な清掃、フィッシャリーナ側の砂浜の遊泳可能区域化、車中泊ではなく宿泊施設への誘引、バーベキュー区域の設定、子供の海水浴教育、マルキポイントの駐車場有料化、マナー条例の制定等。 （30 代　男性）
若い世代の定住を促進するために （８月提出分）	・鴨川市全域に放置されている土地を活用する。 ・企業誘致、大手商業施設の誘致。 ・鴨川市全域の幹線道路の拡張（片側二車線）もしくは増線。 ・山間部や使われていない田んぼを埋め立て等して分譲地を造る。 ・都内や川崎、横浜方面の通勤圏化 ・子ども医療費（外来受診費用）の中学3年生までの引き上げ ・医療以外の専門分野の学校を増やしてほしい。 ・市内の賃貸住宅や土地代を現段階よりもう少し安く提供してほしい。 （年齢性別不詳）

・東京、横浜、川崎方面高速バスの新設、増便、インフラ整備、移住者受け入れ態勢整備

若い世代の方は、東京、横浜、川崎方面で勤務している人が多い。そのため鴨川市内から通勤出来るよう、高速バスの新設、増便を行う。館山道保田 IC と君津 IC から鴨川方面までの道路拡張と主要道路の本数を増やす。

平日は都会で勤務し、休日は鴨川で過ごせるように空家、古民家、空地を活用して若者の受け入れ態勢を整える。大企業等や商業施設も誘致してほしい。

（30 代　男性）

・マリンスポーツのインストラクターを養成する専門学校の開設

サーフィンやスキューバダイビングなどマリンスポーツが普及し、定着しているが、これらマリンスポーツの指導者の養成システムは確立していない。そのため、サーフィンのメッカである鴨川市にマリンスポーツのインストラクターを養成する専門学校を開設する。

具体的には、市内高等学校の余剰スペースの一部を借りて、著名なプロサーファーやプロダイバーが教員となって、サーフィン、ダイビング等マリンスポーツのインストラクターを養成する専門学校を開設する。

（50 代　男性）

・鴨川バスターミナル（仮称）設置、高速バス運行

東京、横浜、羽田と鴨川を結ぶ高速バスを鋸南保田インターから長狭街道（主要地方道鴨川保田線）を通り、天津小湊まで走らせる。みんなみの里や鴨川市運動場にバスターミナルを創り、通勤駐車場として、また、スポーツ施設利用者、観光利用者等のために役立てる。

（60 代　男性）

・イタリアンの店が多い事を生かしてイタリアンのまちとしてアピールする。

宇都宮が餃子の町となったのは、平成２年に市の職員が町興しになる事を探していたところ、統計局の「家計調査年報」の中で「餃子購入額」において宇都宮が常に上位に挙がっていることに注目し、「餃子」をキーワードとしてPRに力を入れてきたことがきっかけになっているとされる。 数年前までは、観光都市「日光・鬼怒川」への通過点にすぎなかった宇都宮が、今では餃子という大きな観光資源を手に入れ、秋には「餃子」をテーマとした「宇都宮餃子祭り」が定例となっている。

（20 代　男性）

・TV番組等の開拓や農業体験漁業体験など自然を生かした体験施設の設立

無人島の観光地化プロジェクト、開拓や自然体験など、一般の人が中々できない事を行うテレビ番組が高い人気を集めている。こうした体験をできる施設を整備し、インターネット等でライブ配信を行う。

（20 代　男性）

・若者が鴨川に住む事がステイタスとなるようなブランド化を行う。（海・街並・歴史など）

長狭米や房州ひじきなど、食のブランドはあるが、若者がステイタスを感じるようなブランドが無い。サーフィンやダイビング、寺社仏閣のブランド化を行い、若者を呼び込む。

（20 代　男性）

	・鴨川市の国際化 国際的コンサート、国際的フェスティバル、国際的交流の機会を定期的に行い、若い人に運営してもらう。インターネットを使えば企画、運営の費用は安価で、小規模なものはすぐに実現できるし、若い人は国際化に興味を持っており、交流したいと思っている。 （50 代　女性）
	・U ターン準備金の支給 市内出身者で都市部で働く 45 歳以下の者が、市内への U ターンを希望する場合に、その準備金を支給する。30 万円程度の支給で、3 年以上居住し続けることが条件。 （30 代　男性）
	・住宅無料支給制度 市内の空き家となった住宅を移住者に無償で貸し出し、15 年以上居住し続けた場合は、当該住宅を譲渡する。（東京都奥多摩町の取り組みを参照） （30 代　男性）
	・かずさアカデミアパークへの企業や公的研究機関の誘致促進 市内から同所へは通勤圏内であるが、当初の構想どおりに活用されている状況ではない。千葉県等へ働きかけ、改めて活用方針を見直すべき。 （30 代　男性）
	・東京、羽田、横浜方面への通勤時間帯高速バスの増便 アクアラインにより、市内から東京・横浜方面への通勤（あるいは半単身赴任）も可能である。今後更に、魅力ある住みやすい市となっていくことで、若い世代のそのような選択は増えていくと考えられる。 （30 代　男性）
若い世代の結婚、出産、子育てについての希望をかなえるために （７月提出分）	・若い世代への地方創生アイデア募集 PR 及び懇談会等への参加呼びかけ 若い世代が懇談会や座談会に参加できるよう、こういった機会に保育、託児を用意してはどうか。また、子どもが親と一緒にいても構わないと気軽に参加できる雰囲気をアピールしたら若い世代が増えるのではないか。 当時者でないと困っていることは分からない場合も多い。 （50 代　女性）
（８月提出分）	・教育環境の整備 住む地域に拘らず、児童が均等に十分な教育を受けられることが大切。分校を複数地域に設けるのはどうか。「子供たちが快適に楽しく学校生活を送れるにはいかにすべきか」の視点で、居住性、給食の質や量、衛生面などを総合的に計画する。給食の地産地消やそのための供給体制の構築、託児所の設置など受け入れ態勢を整える。 （70 代　男性）

	・結婚しやすい鴨川づくり 「結婚しやすい鴨川づくり」に努力しませんか。そのためには実態調査し問題点をクローズアップする。結婚支援プランを策定し PR する。担当職員は大変忙しいので専門職とする。 市内の仕事が少なく、給料も安いため、空き家のあっせんや住居手当、休耕田貸与、成婚者への祝金支給などを明確にしたら成婚者も増えるのではないか。 （70 代　女性）
	・大人のクラブ活動の設立及び支援（スポーツや趣味を生かした男女の出会いの場） 男女の恋愛は学校や部活、職場等の小さなコミュニティで多く育まれる。現状鴨川市では婚活パーティー等を行っているが、短時間で出会うきっかけを作るだけでは実りは多くないように思える。1度のきっかけで結婚に発展できれば良いが、そうではない人々が婚期を逃しているように思われる。 スポーツや趣味で月に数度集まる機会を設け、そこで時間をかけて自然に恋愛から結婚へとつながる場を支援する必要があるのではないか。 （20 代　男性）
	・子育て環境の整備 子育て環境が整っていない。具体的には保育園・幼稚園の営業時間。18 時までが大半だが、仕事は 18 時までが一般的ではないのか。産休前、育休前まで社員だった方も、迎えのため 17 時半には会社を出なくてはならず、社員から格下げされてパートに落ち着くケースが多々あるように思える。保育園・幼稚園はせめて 19 時まではやるべきであり、他県と比べ遅れている部分だと言える。 更に言えば、土曜日の預かりは午前中までだが、鴨川に土日休みの会社がどれだけあるのだろうか。移住者は預かってもらえる親なんて近くにはいないのだから、若者を呼べる準備が足りていないと感じてしまう。保育士や財源の問題もあるとは思うが、ここをやらずして鴨川の未来は明るくはならないと感じてしまう。 （年齢性別不詳）
	・助産院の設置 出産費用を負担する必要がなければ、安心して妊娠することができる。鴨川市が助産院施設を提供し、そこでの出産は出産育児一時金 42 万円の範囲で済むようにする。市内病院が嘱託医として連携すれば、すぐに開設できる。 （50 代　女性）
活力があり安心して住める暮らしづくりのために （７月提出分）	・鴨川市民からオリンピック選手の輩出を目指す。 千葉県は全国的にも自転車が盛んな県であり、オリンピック種目のオフロードバイクに絞り選手の育成を図ってはどうか。 まずは、幼少用ストライダー練習場の設置を望む。 （30 代　男性）
	・総合運動施設周辺を整備し、運動公園としての機能を強化して欲しい。 ランニング、ウォーキングコースを設置した運動公園として、市民の交流の場や健康増進を図る場として終日開放して欲しい。 （60 代　女性）

・朝のラジオ体操の普及促進

毎朝ラジオ体操の放送を市内全域に流し、地域ごとに広場等に集まって体操を行うことを提案する。

足や腰の悪い人もたくさんいます。市民の健康や、コミュニティづくり等のためにも市民全体で取り組んでいくことが大切だと思う。

（60 代　女性）

・寝たきり老人への定期的な無料歯科治療を実施する。

歯がよくなると食欲が出て、起き上がれるようになり仕事に復帰したという実体験をテレビで見た。元気になればおのずと町のために協力してくれる。

まずは感謝される道を作って欲しい。

（60 代　女性）

・バス停留所への腰かけの設置

バスに乗るのは半分は老人であり、切実な願いです。ボランティアで高校生に作ってもらったらどうか。

（60 代　女性）

・年寄りに墓を（ゆりかごから墓場までは昔の話）

地方創生、鴨川には医療機関の充実によって、高度の医療による安心安全が行われているが、人は必ず死ぬ。

団塊の世代は、地方より都会へ出て日本の高度成長に貢献してきたが、皆年寄りになってきた。

党利、宗派を超えて、風光明媚な高台に 10 万人、100 万人が安価で合祀できるような公園墓地、合葬墓の設置を希望する。

（60 代　男性）

・ごみの減量化、資源化への取組みを

可燃ごみの 50%削減や、現在可燃ごみとして捨てている樹木等の資源化の検討など、可能な限り、細かな分別収集を行い再資源化を実施すべき。

また、ごみ集積場の集約、整備などを行い、収集効率のアップと環境美化を図る。

（50 代　女性）

・ひじきや海草を活用したまちづくりを行ってはどうか

NHKの「ひじき」の放送を見た。この強みをもっと活かすべき。

大学研究室などと組んで、ひじきのうまみ成分の分析や健康面、医療面からの分析を行い、確たる根拠が得られればさらに大きく発展するのではないか。

そのほかにも、カジメ、天草、藻などの海藻類もある。こうしたものを活用し、大きな病院もあるし、医、健、食のまちづくりをすすめてはいかがか。

（70 代　男性）

（８月提出分）	・産業振興の取組 一次二次産業は同経営者が運営し、三次産業は専門家の指導に沿って戦略展開して、若者の活躍の場とする。一次二次産業と教育、観光産業の連携を図り、交流人口、定住人口の増加に努める。また先端技術を導入すべく、特殊な教育の場を創り専門家を育てる。 観光産業は、新しい体験プログラムを導入すること。生活に役立つ体験プラグラム、農家民泊、医療機関見学や講習など。 （60 代　男性）
	・長狭地区の活性化 自然が恵まれているなかで、長狭地区は賃貸の一軒家が少ない。店も少ないため、時間を費やし遠方へ行かなければならないため、貸家や店舗を増やしてほしい。 また子供の遊び場も長狭地区は少ない。学校跡地等遊休施設を活用して、室内でも遊べる公共施設を設けて欲しい。 （30 代　女性）
	・巡回医師制度の確立 高齢者などは医者にかかる際、交通の便や付き添い者の確保など大変な労力を要し、行き帰り途中のリスクも無視できない。 医者が患者宅に出張して診察やカウンセリング、比較的難度の低い検査治療を施せる制度があれば、老後を安心して暮らしたいと願う者たちの移住が見込まれる。 （70 代　男性）
	・財政の健全化 これから大幅に税収が増えることは考えられないため、極力無駄な出費を抑えるためにも、市役所関係（公務員）の徹底した合理化を進めてほしい。 ・人件費及び経費の削減（民間経営への移行） ・他県からの移住者の登用や意見募集 （70 代　男性）
	・市街地道路付近の美化 特に市内の幹線道路周り（歩道橋・ゴミ・雑草など）の美化。せめて市街地道路の外観だけでも早めに整備してほしい。市内の美化運動日をもっと増やしてみては。（行政だけでは無理なため、商店や会社・住民への美化啓発活動と住民のやる気の喚起が必要。） （70 代　男性）
	・安房鴨川駅前に若い人のたまり場（ブックカフェ）をつくる。 市内に大学 2 校、高校 2 校があるが、若い人のたまり場、鉄道やバスの待ち時間をつぶせる場所がなく、安房鴨川駅周辺は非常に寂れている。 そこで、駅前に中古の本を集め、食べ物を持ち込んで食べたり、自習したり、読書したりできるブックカフェを作り、高校生や大学生が集まる場所、自習ができる場所を作る。 また、夜間は勉強のできない小中学生の補習塾を開催する。 （50 代　男性）

・快適に暮らしやすい交流拠点の町づくり

市街地整備（電線等の地中化など）を何年かけても計画的に行えば、町の景観がよくなると思われる。それと、現在ある住宅リフォーム補助金の枠を広げて店舗リフォーム補助金を創設し、空き店舗の利活用（起業希望者へ貸与し、シャッター街となった商店街の復旧、起業者の移住）を行ってはどうか。

また、他地域と比べて整っている体育関連施設を国、県へ強く宣伝するなど、中学、高校の各種大会、合宿等の積極的誘致にも力を入れて欲しい。

（60 代　男性）

・まちづくりに関する活動を行う団体の育成

まちづくりに関する活動（草取りや掃除、花の手入れ、ごみ拾い等）をする団体、サークルがあった方が良いと思う。そのような団体がすでに存在するのならば、定期的に活動し、関心のある人がいつでも参加できるような環境づくりをしてほしい。

（20 代　男性）

・祭礼への支援

祭礼は地域全体で行われるため、動員人数も多く、楽しみにしている人も少なくない。しかし、仕事を休まざるを得ない状況で行われるために、企業の理解を得難い場合が多い。地域企業へ祭礼への参加の理解を求め、人が参加しやすい環境を整え、祭礼を支援する。

（20 代　男性）

・市で治水、発電して一定量の水道、電気を鴨川市民に無料で提供する。

住居、水道光熱費にお金がかからなければ、安心していつまでも住み続けることができる。

（50 代　女性）

・インターネットを無料で提供する。

住居費に回しているお金を教育や、文化に使うことができ、生活の内容を豊かにできる。

（50 代　女性）

・廃屋を無償で提供する。

移住してみたい人にとっては住居費が必要なければ簡単に移住してこられる。

（50 代　女性）

・都市部で生活する市内出身者に、祭礼には帰省するよう呼びかける。

鴨川市を含む南房総は古くから祭礼が盛んな土地であるが、その祭礼をかつてのように盛り上げていく。鴨川合同祭や本年の天津神明神社の式年鳥居木曳は、テレビで取り上げられ盛況であったが、地域の祭礼の多くは、慢性的に人材不足である。都市部で生活する市内出身者と祭礼運営者との橋渡しを行う。

（30 代　男性）

	・鴨川市の農山村の活性化に向けての提言 高齢化、過疎化によって増大している耕作放棄地を有機農業で甦らせる。大学と連携し、農業体験作業を支援して、耕作放棄地の再生利用で農家経済の向上をはかる。地域全体で循環する有機農業で、まほろばの里を作り、農村が元気になることによって、商業活動も元気になり、日々の暮らしの豊かさにつながる。 ≪アイデア具体例≫ ・もう宗竹・ハッ竹の伐採（間伐）と有機肥料（竹肥化）としての活用 ・有機たい肥による土づくり ・土手草の活用 ・バイオマスによるエネルギーの自給 （年齢不詳　男性）
その他 （８月提出分）	・意見聴取の手続について 鴨川市の将来イメージや、対象とする区域（市全域なのか、一部なのか）を明示すべきではないか。 20～40 代の若者世代を対象とする懇談会を開いてほしい。 （30 代　男性）